

竹内 竜介
TAKEUCHI Ryosuke

■ 専門分野

経営学分野・国際経営史（主に多国籍企業の経営活動に関する歴史的分析）

■ 指導可能な研究テーマ

- ・企業の国際経営活動に関する定性的研究
- ・企業の国際競争力の創出や発展に関する定性的研究
- ・企業家活動に関する定性的研究

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

●過去に指導した修士課程の学生数：19 名

（内訳【2011 年度修了】4 名、【2013 年度修了】2 名、【2014 年度修了】2 名、【2015 年度修了】2 名、【2016 年度修了】2 名、【2017 年度修了】5 名、【2022 年度修了】1 名、【2024 年度修了】1 名）

途中、サバティカルおよび社会人専修コース担当による中断あり。

●過去の修士論文題目一覧

【2011 年度修了】

「BOP ビジネス研究の方向性に関する考察 ―BOP ビジネス支援制度の役割と可能性について―」

「アジア企業のグローバル・ブランド構築における戦略に関する研究」

「海外子会社の役割進化に及ぼす外部要因 後進国における子会社を中心に考察」

「新興国発の IT 企業の国際化 ―ネットサービス企業を中心に」

【2013 年度修了】

「在中日系企業における従業員間の摩擦解消に関する研究」

「中国企業の国際 M&A 後における組織統合に関する研究―Lenovo による IBM の PC 部門買収の事例を中心に―」

【2014 年度修了】

「多国籍企業経営の知識移転―レクサスの販売を事例として」

「東南アジアにおける日本企業の市場展開―華人ネットワークの活用の視点から」

【2015 年度修了】

「コンビニの海外進出における小売ノウハウの移転と変容 ―セブン-イレブン・ジャパンの中国北京の事例を中心に―」

「国際提携による新興国の地域発展」

【2016 年度修了】

「B2C 電子商取引企業の競争戦略の形成について ―中国の京東商城を中心に―」

「航空業界の競合戦略研究 ―エバー航空の事例を中心に―」

【2017 年度修了】

「FANCL のグローバル・ブランド戦略―CBBE モデルをベースにする研究―」

「日系コンビニの中国進出に関する研究～二次進出に焦点をあてて～」

「外資系企業の日本における研究開発戦略について―日本ロレアル社の事例を中心に―」

「マーケティングの視点から見る、コモディティ化産業における後進国企業の逆転要因～レノボのグローバルブランディングを事例に～」

「日系小売企業の国際化における現地の立地戦略 ―イトーヨーカ堂（中国）を例に―」

【2022 年度修了】

「衰退している地方公共バス産業における企業活動の研究：小嶋光信の企業者活動を事例として」

【2024 年度修了】

「新興国市場進出における日本中小企業の成功要因：企業家活動の視点からの分析」

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

学生の修学状況によって異なります。

国際経営に関するテーマを取り扱う場合、次の文献の内容を理解しておくことは必要となります。

・浅川和宏（2003）『グローバル経営入門』日経 BP マーケティング（2022 年に新装版が出版されています）。

・大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

また研究方法についての知識を身につけるために、次の文献の内容を理解しておくことも必要となります。

・田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン：経営知識創造の基本技術』白桃書房。

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

- ・組織マネジメント特論

- ・国際経営特論
- ・戦略経営特論
- ・人的資源管理特論
- ・グローバル・イノベーション・マネジメント特論
- ・経営史特論
- ・定性研究法特論

■ 博士課程後期での研究指導実績

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

該当なし

■ その他

指導教員は主として定性的研究（歴史的分析）を専門としています。そのため、原則として、修士論文では定性的研究に取り組んでいただきたいと思います。

研究指導を志望する場合は、事前に指導教員の研究成果（研究テーマや対象、研究の方法論）を必ずご確認ください。ご自身の研究テーマに対して指導教員が相応しいかどうかの確認をせずに受験・研究生活を進めることは、好ましい結果につながらない可能性が高くなります。